

理学療法における基礎研究を、狭義の基礎医学のみならず、理学療法の礎としてのフレームワークや実践過程について様々な視点からご執筆いただきました。

■理学療法士自身の頭と手で基礎研究を！(武富由雄論文)

理学療法における基礎研究の意義を、ハードおよびソフトの科学を媒介とした患者・障害者の問題解決に有効であるものと捉え、理学療法の変遷と発展を通して臨床、研究、教育の視点から解説いただきました。

先生の卓越した観察力と長年の叡知が結集された奥深い内容です。

■理学療法における基礎研究の1つとしての QOL(佐藤秀紀、他論文)

介入効果に関する重要な判断材料である費用分析と QOL の検討について述べられ、脳卒中後遺症者のリハビリテーションに関連した主観的 QOL の分析について、統計手法を含めて具体的に解説いただきました。

最終的な治療目標との関連についても言及された明解な論旨です。

■混沌とした現実から脱却するための試み(村永信吾論文)

理学療法における基礎研究を、問題に掘り起こしていく過程と捉え、その集積は具体的な行動を指示すると述べられています。同時に細分化・ハイテク化された傾向が臨床とのギャップを広げる可能性を指摘され、研究成果を反映させるのはあくまでも理学療法においてである点を強調されています。

■再現性の高い正確な実験結果を！(灰田信英論文)

動物実験におけるモデルと外挿について平易にご説明くださり、代替材料としての共通した現象と相違について解説いただきました。

日頃なじみの薄い内容を身近に感じさせる内容です。

■理学療法における基礎研究—私の体験と実際(久保晃、他論文)

各々のお立場から基礎研究の範囲と実践過程を極めて具体的にご執筆くださり、ご自身の信念や理学療法観と交錯した深みのある文章です。

理学療法士自身の軌跡とモデルともいえる内容は圧巻です。